

03

March
2026

[月刊] キリスト教書評誌

本の ひろば

HON-NO-HIROBA

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター
1957年7月17日第三種郵便物認可
2026年3月1日発行(毎月一回1日発行)
第819号

出会い・本・人

お釈迦さまの手のひら 西平 直

特集シリーズこの三冊！

聖書の謎(ミステリ)に迫るためのこの三冊！ 清涼院流水

本・批評と紹介

N・T・ライト著／本多峰子訳

いばらの冠と愛の炎 ヘルソン橋本ジョシユア諒

原 敬子編著

ヒューマンイズムということ 香山リカ

ギユイヨン夫人著／大須賀沙織訳

雅歌註解 鶴岡賀雄

越川弘英著

冬のキリスト 佐原光児

前川 裕著

教会暦によるキリスト教入門 田中郷史

本多峰子著

イエスの語るたとえ 関 智征

滝沢克己著／滝谷美佐保編

中学生の孫への手紙 小林孝吉

金子晴勇著

キリスト教思想史の例話集Ⅲ 関川祐一郎

エーリヒ・バイロイター著／梅田與四男訳

ツインツェンドルフ 立山忠浩

ジョン・ミルバンク著／原田健太朗訳

神学と社会学論 鍋木政彦

クリス&ジェイミー・ペイリー著／田尻潤子訳

どうすれば赦せるようになるのか 川上直哉

アモス書を 読もう

並木浩一

正義を大河のように流れさせよ



2026年2月16日刊行予定

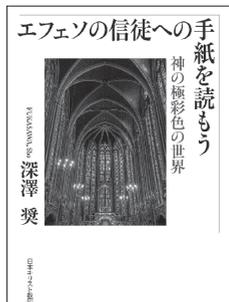
◆四六判並製・184頁・定価2420円

アモス書は社会的不正義と人間感覚の喪失を鋭く指摘し、正義と公正こそ神の重大な関心事であると語る。聖書の現代性が深く響く。

エフェソの信徒へ の手紙を読もう

深澤 奨

神の極彩色の世界



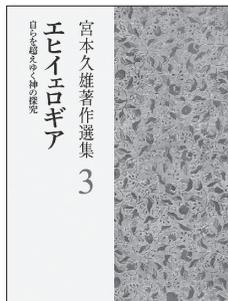
2026年2月25日刊行予定

◆四六判並製・160頁・定価1980円

平和や人権、国際問題、ジェンダーなど、現代の課題と切り結んだエフェソ書をも、ギリシヤ語から読み起こす意欲的な書。

宮本久雄著作選集3《最終回配本》 エヒエロギア

自らを超えゆく神の探究



2026年2月18日刊行予定

◆A5判上製・314頁・定価4620円

出エジプト記に示される神の姿（エヒエ）に拠りつつ、西欧の形而上学的存在神論を超越すべくエヒエ的脱在論の構築を目指す。

- シリーズ発売中
- 『1 聖書
—旅する神のダーバール（言即事）と共に』
定価4,620円
 - 『2 キリスト教思想
—愛とケノーシスの間（あわい）にて』
定価4,620円

神学は語る《最終回配本》 ファンダメンタリズム

ピーター・A.ハフ 藤原淳賀/豊川 慎 訳

2026年2月24日刊行予定



◆A5判並製・266頁・定価4070円

ファンダメンタリズムの出現から衰退と再興・分化、思想的特徴、キリスト教のほかイスラム、ユダヤ教などにおける現れを概観。

- シリーズ発売中
- 『聖書とキリスト教倫理』 定価2,640円
 - 『新約聖書と黙示』 定価2,420円
 - 『たとえ話』 定価2,860円
 - 『パウロの教会はどう理解されたか』 定価2,640円
 - 『パウロと律法』 定価3,740円

お釈迦さまの手のひら

人 本



西平 直

高校生の時、私は、教会に通い始めた。勧められたのではない。自分から行きたいと思った。教会のことは何も知らなかった。ボンヤリ、薄暗いカテドラルを想像していた。

案内された教会はまったく違った。米軍払い下げの廃材を組み合わせたバラック小屋のような教会。不思議なのだが、高年生の私は、その「手作り感」が気に入った。伝統も権威もない。名もなき人々の純粹な信仰の群れ。私は、福音書に登場する「イエスに寄り添う人々」に出会ったように感じた。

自分も役に立ちたいと思った。そして、自分が必要とされているように感じると誇らしかった。承認欲求を満たしてもらえたということなのだろうか。米国の宣教団体を基盤とした「福音派」の教会であった。

その後、十数年、私の暮らしの中心には、教会があった。しかし同時に、教会に対する違和感も大きくなった。何か違う。そう感じながら、何が違うのか、よく分からなかった。

教会の人々は伝道や宣教を大切にしていた。キリストの福音を伝える。神さまに喜んでいただきたいなら、福音を伝えること。社会をよくしたいと思うなら、たとえ回り道に見えても、福音を伝えることが、結果的には、最も確実な道である。そうした説教をたくさん聞いた。

今から思えば、社会の不正に対する批判の視点が弱かった。困難を抱えた人たちへの奉仕も弱かった。そして何より、そこには、静寂の中に自らの内面と向き合う視点が欠けていた。

それから半世紀、私はずいぶん遠いところまで歩いてきた。そう思うたびに、孫悟空の話を思い出す。地の果ての岩に自分の名を書きつけてきた。そう自慢しながらお釈迦様の指を見たら、自分の名が書いてある。すべてお釈迦様の手のひらの中だった。

すべて神の御手のなかの出来事なのだろう。

(にしひら・ただし 上智大学グリーンフケア研究所・副所長)



▼シリーズ この三冊！

聖書の謎（ミステリ）に迫るための この三冊！

清涼院流水

（せいりょういん・りゅうすい…作家）

人類史上最大のベストセラーである聖書は、ミステリ（謎を扱う物語）としても、並び立つ存在のない最高峰であり続けています。一九九六年に作家デビューした筆者は、これまで三〇年、ミステリの書き手として活動してきました。海外ミステリに話題がよく出てくる聖書に昔から知的好奇心はあつたのですが、当時三五歳だった二〇〇九年までは聖書をきちんと読んだことはなく、まさか自分が将来クリスチャンになるとは夢にも思っていませんでした。

た。ですが、絶対に断れない筋からの依頼でクリシタン大名の小説に挑戦することになり、その作品を刊行するまで一〇年近く聖書と日々格闘し続けた末に、クリスチャンになりたいと心から願って二〇二〇年に洗礼を受け、カトリック信徒となりました。学ぶ過程でクリスト教の信仰の奥深さに惹かれると同時に、人類史の根幹に関わる聖書のミステリに魅了され、その虜になりました。聖書の探究に取

り憑かれてしまった、と表現しても決して大げさではありません。現在の筆者は、日本語でも英語でも聖書のいろんなバージョンを何度も通読していますが、聖書のミステリの核心に少しでも迫りたいという渴望は、年とともに薄れるどころか、いままも日ごとに強まり続けています。

今回、聖書のミステリに迫る書籍について、このエッセイをご依頼いただいた際、最初に浮かんだ書籍がいくつかあったのですが、洋書や絶版本は対象外というルールによって候補がかなり狭められ、スタンダードなものを一冊ご紹介することにしました。

まず一冊目は、『**聖書スタデイ版改訂版**』（日本聖書協会、二〇一四年）です。解説がついている、いわゆる「スタデイ・バイブル」で、本書は日本でもっとも読まれている新共同訳聖書に解説が添えられているものです。二〇一八年に三二年ぶりの全面新訳と

して聖書協会共同訳が刊行されて以降も多くの日本人に親しまれている新共同訳のスタデイ版として、非常に価値が高いです。新共同訳は、カトリックとプロテスタントが長い時間をかけて協力してつくりあげたもので、このスタデイ・バイブルの解説も、どちらかのスタンスに偏らずニュートラルな視点に立っています。聖書は、解説なしで読んでも意味がわからない箇所が多いので、この定番訳聖書のスタデイ・バイブルは、理解を深めるには最適です。

二冊目は、カトリック修道会のひとつフランシスコ会の聖書研究所による『聖書 原文校訂による口語訳』（サンパウロ）です。本書は一九五八年から分冊版で刊行開始され、ようやく一冊にまとまったのは二〇一一年でした。これも詳細な注釈がついている数少ない聖書のひとつで、筆者は、紙の聖書

の中では、このフランシスコ会訳をいちばん重宝しています。解説はカトリックの視点ですが、プロテスタントの方であっても参考になるはずの内容が満載です。この本に掲載されている注釈は、英語で書かれた最先端の聖書解説書とも共通部分が多いので、本書を参照することで、現在までにわかっている聖書のミステリはかなり把握できます。

もともと、聖書のミステリは現時点でまったくわかっていないことも多いです。史料の根拠に基づく必要のある聖書研究の限界を超える試みとして、フィクションの形式を利用して筆者が書いたのが、『神探偵イエス・キリストの回想 逆襲のユダ』（星海社、二〇二五年）です。こうした場で自著をご紹介しますことはあまりないのですが、今回は、ご担当の方が筆者の「神探偵イエス・キリスト」シリーズ二冊を読

んで興味を持ってくださったことが本稿を依頼していただいたきっかけです。聖書のミステリに迫った本のひとつとして、ご紹介いたします。

版元の編集長さんから「イエス・キリストを名探偵としてミステリを書いてください」と依頼されたとき、その途方もないアイデアに最初は正直とまどったのですが、イエス・キリストを探偵役に聖書の舞台を描いたら、ノンクリスチャンの方たちにも聖書への関心を強めていただけるのではないかと期待しました。実際、ノンクリスチャン読者からは「ミステリを楽しみながら、ついでに聖書を学べるのが良い」と、クリスチャン読者からは「わかっていないつもりだった聖書箇所の理解が、さらに深まった」といった嬉しいご感想が次々に寄せられて、この企画は間違いはなかったという確信は日増しに強まっています。

たとえば、イエス・キリストがパンと魚を増やして大群衆に与える奇跡のことは、クリスチャンなら、だれでも知っています。ですが、よく言われる五千人というのは実は大人の男だけで、現場には女性と子供もいたことが聖書に明記されていて、実際には二万人はいたと考えられています。この数は、

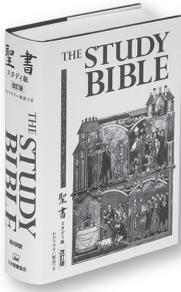
当時のガリラヤ湖北部の町や村の人口を合計した以上の数です。通信手段のない時代に、地方の総人口を上回る群衆をどうやって集めたのが大きな謎ですし、配るだけでも丸一日かかるそれだけの人にどのようにパンと魚を行き渡らせたかというのは、聖書は決して答えてくれない大きな謎です。こうした謎について、あくまでフィクションではありますが、拙著は、ひとつの答えを提示しています。もちろん、その仮説を裏づける史料がいまから見つかる可能性は低いので、あくまでフィ

クションとして楽しんでいただくためのだけの仮説ですが、そうした謎解きが、いままで素通りしていた聖書のさまざまな謎について考えるきっかけになることを期待しています。

筆者はこの「神探偵イエス・キリスト」シリーズの執筆と並行して、「聖書のミステリに迫る新たな試みとして、二〇二五年一月二日から清涼院流水個人のX（旧ツイッター）を初めて開設し、旧約聖書と新約聖書の印象に残った箇所を日本語と英語で引用し、筆者の解説を添える企画を新たに始めました。かなり迷いましたが、日本語はカトリックとプロテスタント共通の新共同訳や聖書協会共同訳ではなく、本稿でご紹介しているフランシスコ会聖書研究所による『聖書 原文校訂による口語訳』から引用することにしました。理由としては、カトリックの立場で翻訳された聖書であれば、プロテ

スタントの方たちもお持ちの聖書との比較を楽しんでいただけると思ったりです。また、プロテスタントの聖書に含まれない、いわゆる「旧約聖書続編」の部分にも良いことがたくさん書いてあるので、それを知ってほしい、という気持ちもあります。この聖句は英語ではどんな文章になっているんだろう、と思われた方には、日英を参照してお楽しみいただけます。

まだ始めたばかりですが、この「きょうの旧約聖句」と「きょうの新約聖句」のXポストには多くのノンクリスチャンの方が毎日ポジティブに反応してくださっており、日本人にキリスト教と聖書の魅力を広めるといった筆者のミッションを遂行する上で、これは重要な活動になる強い予感があります。筆者は自分が天に召される日までのXポストを続けるつもりです。Xをお使いの方、あるいは、いまお使



『聖書スタディ版
改訂版』

日本聖書協会
2014年
A5判
2208頁
9,240円

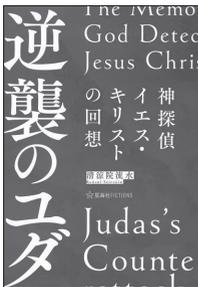
いでもなくともご興味を持ってくださっ
た方は、ぜひチェックしていただだけま
すと、ありがとうございます。
自分の活動を通して、いつも感じる
のですが、日本人の多くはキリスト教
と聖書に強い関心を持っています。筆
者のXポストのように、届け方を工夫
することで、キリスト教と聖書に目ざ



『聖書 原文校訂によ
る口語訳』

フランシスコ会聖書研究
所：訳注
サンパウロ
2011年
A5判
3264頁
8,800円

める方が激増することを筆者は心から
信じており、まったく疑っていません。
日本のキリスト教会の黄金時代がこ
れから始まると、筆者は信じています。



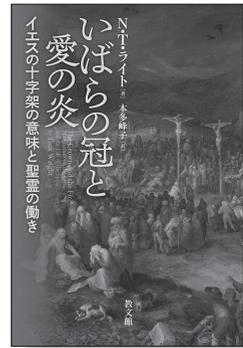
『神探偵イエス・キリス
トの回想——逆襲のユダ』

清涼院流水：著
星海社（発売元：講談社）
2025年
B6判
304頁
1,870円

N・T・ライトの説教、

すげすげ！

〔評者〕ネルソン橋本ジョシユア 諒



いばらの冠と愛の炎
 イエスの十字架の意味と聖霊の働き

N・T・ライト著
 本多峰子訳



N・T・ライトの名前を知らないクリスチャンは少ないであろう。ダラム司教としてイギリス国教会において指導的立場を担った経験を持つライトは、今世紀を代表する新約聖書学者の一人であり、専門書から一般向けの著作まで幅広いジャンルを世に送り出している。日本語で読めるものも年々増えているが、その中で『The Crown and the Fire: Meditations on the Cross and the Life of the Spirit』の翻訳は、原著が三〇年以上前（一九九二年）に出版されたものであるにもかかわらず、時代を感じさせず、日本に暮らす読者に新鮮な視点を提供している。

本書には、一九八〇年代から九〇年代初頭にかけて、ライトが大学や教会の場で語った講演や説教が収められている。全体はパート1とパート2の二部構成となっていて、各章（第一二章を除く）の導入部分に聖書箇所引用が置

かれ、最後は祈りで締め括られている。前半には受難日の時期に行われた黙想が含まれ、後半は説教形式を中心に、より幅広いテーマが扱われている。本書の魅力は、牧会的な立場から聖書学や組織神学の内容を織り込み、説教の語りとして、簡潔でありながらも深い洞察に満ちている点にある。また、イギリスを代表する作家・詩人であるC・S・ルイスの『悪魔の手紙』やT・S・エリオットの『キリスト教社会の理念』に加え、さらに時代を遡ってオデュッセウスの伝説や、ジョン・バニヤンの『天路歷程』への言及が随所に見られ、その教養の広さに圧倒される。確かに、西洋的な文化への前提に偏る部分があり、それは日本に暮らす一般的な読者を想定する内容ではない。それでもキリスト教に関心がある読者であれば、それは想像力を刺激する内容になっている。また、訳者はC・S・ルイ

スの研究者でもあり、本書の姉妹編も翻訳した経験を持つため、日本に暮らす読者にとって読みやすさを重視した工夫と配慮が、訳書全体から十分に感じ取れる。

大学や教会でキリスト教教育に携わる身として、特に第一章におけるユークリスタ「聖餐」の議論は興味深い。ローマ・カトリックの化体説からルターの共在説に至るまで、様々な立場が整理され、平易に解説されている。しかし、それは単なる説明にとどまるものではない。例えば、「ユークリスタにおいて私たちはイエスを振り返るだけでなく、将来にイエスを見つめるのです。前方に目をこらすとき、私たちは被造界全体についての、イエスの計画を垣間見るのです」（一七六頁）という記述があるこの段落全体を読むと、聖餐論にとどまらず、終末論、受肉論、救済

論にまで及ぶ洞察を示している。このように本章は、私たちのユークリスタ理解を含む神学的見識を大きく広げきつかけを与えている。また、本書の内容の大半が説教をベースとしているため、実践神学的な観点から評価すると、信仰生活における〈悩み〉にそのまま応用できる点も本書の特徴である。特に第八章において、「死後の生」を復活の意義と結びつけて掘り下げている箇所（一一一―一一三頁）は、キリスト者の福音理解をいっそう深化させるものとなるのではないか。このように本書は、教会や学校、さらには小グループでの聖書勉強会など、様々な場面での活用が考えられる。

（ネルソン・はしもと・ジョシユア・りょう）四国学院大学准教授
（四六判・二一八頁・定価二七五〇円・教文館）



中年の祈り ページをめくる 準備を変える

塩谷直也
中年期、それは喪失を経験しつつ、新たな創造が始まる時期。この人生最大の危機の時を生き抜くための必読書。信仰の視点から中年期を捉えるエッセイと、中年の課題に寄り添う三十数編の祈りを取りめる。

四六判並製・144頁・定価19800円



80歳から創めるキリスト教 よく生きよく老いよく学ぶ

上林順一郎
「生老病死を生き抜く」「ヨコの広さか、タテの深さか」など、人生の知恵が詰まったキリスト教の入門書。80歳を超えた著者だから語れる、どんな世代にも納得してもらえる、聖書による人生ガイド。

四六判並製・128頁・定価1540円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.ucci.or.jp (価格10%税込)
<https://bp-ucci.jp>

自分や他者を大切にしながら 人生を謳歌するために

〈評者〉香山リカ



ヒューマニズムということ
街角のキリスト教人間学
原 敬子 編著



キリストは愛の人。それに異論を唱える人はいないだろう。では、キリストを信じるいわゆるクリスチャンも愛の人なのか。その問いへの答えは分かれるはずだが、集約すると「本来はそうあるべきだけど、実際はそうとも言い切れない」となるのではないか。とくに経済至上主義の現代においては、「自分や儲け以外になんてかかわってはおられない」という人も増えている。

本書は人間社会における愛つまりヒューマニズムを、キリスト教を柱としてどうすれば回復できるのかと、教育、教会、医療などさまざまな「現場」で活動する専門家たちが、ときに真剣にときにユーモラスに考え語り合った書である。

第一部のバリ・カトリック大学神学部教授であるフランソワ・ムーグ氏の講演では、前教皇フランシスコの回勅か

ら次のようなショッキングな言葉を引くことでヒューマニズムの危機が示される。一部を省略して紹介しよう。「人間や生命や社会についての、また自然とのかかわりについての新しい考え方を普及させる努力をしないかぎり、（中略）メディアと強力な市場メカニズムによって、消費主義というパラダイムが進進し続けることでしょう」。

では、どうすればよいのか。答えのひとつは、その前の教皇ベネディクト一六世の「生きるアート（技術）をどうやって身につけるのか」という呼びかけにある、とムーグ氏は考える。教育とはこの「生きるアート」をひとりひとりに促進するものでなければならぬ、とするムーグ氏の次の言葉にはうなずくばかりである。

「教育というのは、知識やノウハウの習得だけを目的としたものではありません。それは、人間を全体として育成し、

最高の目的へと導くものでなければなりません」(五八頁)、「カトリック教育の貢献は、(中略)人間化の実践を試みることであると考えることができます」(五九―六〇頁)。

ムーグ氏は、講演に続いて日本のカトリックの小中高に勤務する教員たちと対話するのだが、それも非常に読み応えがあった。とくに子どもたちの自己肯定感の低さに悩む教員からの切実な声に、キリスト教的ヒューマニズムはどう応えていけるのか、今後の課題として浮き彫りにされた。

第二部、第三部は実践者たちの研究報告やエッセイだ。「人間の実存の本質は自己超越」として人には自分ではない誰かに向かって自分を超えていく「精神性(スピリチュアリテイ)」が備わっているとする加藤美紀氏から、「啞家

と客の『語り、聴く』という共同行為によって互いが人間であることを了承し、確認し合う」という落語の寄席にある種の霊的システムを見て、大学内でも落語会を開催しているという原敬子氏まで、その内容はあまりにバラエティに富んでいるが、それぞれが「生きるアート」のヒントとなっている。

人間が経済システムあるいは情報システムの一部となつたかのように、断片化されている現代社会。今だからこそヒューマニズムやキリスト教の原点に立ち返り、自分や他者を大切にしながら全人的に人生を謳歌する「生きるアート」が求められている。この労作のどのページからも、そんな声が響いてくる気がした。

(かやま・りか 精神科医)

(四六判・四〇〇頁・定価四一八〇円・教文館)

ヨベルの既刊 / 重版案内

ポーラ・グッダー「著」中原康貴訳 レントのこころ

私を遣わしてください

異世界だが親しみがあがり、人を寄せ付けけないながらも人を惹きつけ、生氣はないけれども生命を与えてくれる。レント(受難週)は、私たちが二面的な荒れ野に足を踏み入れるように招いている。レントの精神を解き明かす教会暦手引書、アドベントに続く第2弾。

四六判・二〇〇頁・一八七〇円

好評発売中



ヘンリ・J・M・ナウエン 友川榮監訳 受難節の黙想

イエスの示す道

受難、巡礼、静まり、祈り…。魂の欠片を現代に取り戻す。痛ましい現実を直視しつつも絶望に陥らず、約束を信じて世を生き抜く。祈るのとはわたしではなく、神の聖霊がわたしの中で祈っておられる。

四六判・二二四頁・一八七〇円

重版出来!

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (社) 込

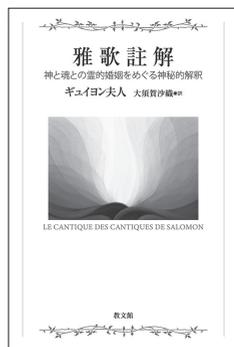


人の魂の美しさを歎ぶ境地へ

〔評者〕 鶴岡賀雄

ギュイヨン夫人として知られる十七世紀フランスの代表的神秘家による、旧約雅歌の解釈書である。彼女が長い苦しみの時期を乗り越えて霊的自己を確立し、猛烈な執筆意欲に駆られた時期の作品で、訪れる人々に対応する合間をぬって「わずか一日半で」書いたと回想している。自分が書いたというより、内なるなにかに駆られるままにペンを走らせた、というのが実感だったようだ。翻訳は一六八八年刊の初版に拠り、綿密な書誌情報が付されている。

訳者大須賀氏は、すでに同じ著者の『短く簡単な祈りの方法』の邦訳を、同様の造本装幀で刊行している（二〇二二年）。両書は執筆時期も近く（一六八五年、著者三十七歳ころ）、併せて読むのがふさわしいだろう。『祈りの方法』は、表題どおり、ギュイヨンが自ら実践していた内的祈りとはなにか、その具体的なやり方やステージの進展を



雅歌註解

神と魂との霊的婚姻をめぐる神秘的解釈

ギュイヨン夫人著

大須賀沙織訳



簡潔に説いた、いわば概説理論書である。対して『雅歌註解』は、内的祈りの実践のよって人がじっさいに経験すること（ことが期待される）ことを、雅歌の霊的解釈として語ったものといえる。雅歌の花嫁を人間の魂、花婿を神のなぞらえと見て、二人の愛の深まりの過程を神との合一にまで到的魂の道行きの比喩とするのが婚姻神秘主義の枠組みだが、ギュイヨンは自身が身をもって経験した愛の合一、霊的婚姻の状態とはどんなものかを、雅歌の花嫁、花婿の言葉に自分の言葉を綯い合わせるようにして、自在な語り口で語り尽くしている。理論編にたいしての実証編といえよう。

だがこの書は、『祈りの方法』とともに、当時のカトリック教会から異端と断じられたのだった。その廉でギュイヨンは収監され、長い迫害の年月を送ることにもなった。

この点では本書は、十七世紀後半のカトリック世界における神秘主義的潮流の高まりと終焉の経緯を見るに重要な著作の一つである。両書への行き届いた「解題」を参照されたい。しかしそうした宗教思想的関心を、この邦訳書はなにか空しいものにしていて、と私には感じられる。そんなこと以前に、本書を書く（書かされている）ギュイヨンの魂の熱量が、また美しさが、読む者にまっすぐに伝わってくるからだ。訳者が、雅歌の言葉も含めて原著の雰囲気をもそのまま掬い取り、読みやすく勢いのある美しい日本語にうつしてくれているからでもある。

「美しい」という言葉を重ねたのは、本書の美しさが、ギュイヨンが見て取る雅歌の花嫁＝完徳の魂の美しさの、遥かではあれ確かな反映のように思えるからである。雅歌

七・七の註解にはこうある。「神は花嫁の中に、自らの完成を見ます。それは鏡の中のように、忠実に映し出されます。神はご自分の中で、花嫁の美しさを見つめ、心奪われ、花嫁に言います。『おお、わが愛しい人、あなたは私の美しさの中で、何と美しい！ 私的美しさはあなたの中で、何と美しい！（……）あなたは美しく、魅惑的だ。私のあらゆる完成で飾られているから。あなたは私の歓喜の泉、私もあなたの歓喜の泉。私たちのよろこびは共通のものなのだ』。人の（また自分の）魂の美しさを、躊躇いの影ひとつなくこんなふうに歎べる境地がありうることに、読者はまずこれを、驚きをこめて認めるのがよいだろう。さまざままな反省的読みもそこから始まることだろう。

（つるおか・よしお 東京大学名誉教授
四六判・三〇二頁・定価三〇八〇円・教文館）

ヨベルの新刊 / 重版案内

大井 満責任編集 ケズイック・コンベンション 説教集 2025

聖なるキリスト者として生きる

もし真夜中に友だちが助けを求めてドアをノックしてきたら……。私ならどうすべきか。どうしたか。21世紀の現代にも通じる真摯な問いかけに聖書は満ちている。御言葉の前に自らを立たせ、神の顔（かんほせ）を仰ぎ見て生きるケズイックの民たち。2025年の記録。

四六判・一九〇頁・一六五〇円

鎌野善三「著」 聖書通読のためのやさしい手引書

3分間のグッドニュース 歴史

4. 刷出来

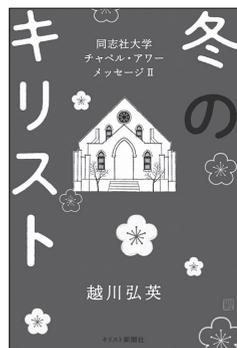
聖書各巻の一章ごとの要諦を3分間で読める平易なメッセージにまとめて、大好評を博した「3分間のグッドニュース」を、国・家興隆から南北分裂・捕囚・帰還に至る激動期までを簡潔な躍動感をもって活写する！ 毎日のデポーションの座右の書に最適！

A5判・二七二頁・一三三〇円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税込)

冬のような現実社会に、 キリストがいてくださる

〔評者〕 佐原光児



冬のキリスト

同志社大学チャペル・アワー・
メッセージⅡ

越川弘英著



現代を生きる学生たちにメッセージを届けることは一筋縄ではない挑戦である。わざわざチャペルに足を運び、小難しい話を聞かされると感じる学生もいるだろう。そこそタイパ（費やす時間に対する効率性や満足度を重視するタイムパフォーマンスの略語）を重んじる学生にとって、単位に関係なく一定時間チャペルに拘束されることは苦行の域に近い。しかし、そうした大学生がいざチャペルアワーに参加すると、全身を包むように響く奏楽やそこで語られる言葉、ゆつくり自分と向き合う時間と空間が新鮮に感じられるらしい。情報が次々とスワイプされて消去される時代だからこそ、自分や世界に向き合うチャペルアワーは大きな可能性を秘めたチャレンジなのだ。

本書には同志社大学で長く教員・チャプレンとして勤めた著者の、おもに大学礼拝でのメッセージが収められてい

る。チャペルアワーで何を主眼に置いて話すかは、話者の個性や関心ごとに大きく左右される。著者は、人間の「罪」について語ることが増えたと言う。このことを知った時、強い興味と同時に不安も覚えた。それは聴衆の罪だけを強調し、高みから服従を強いるメッセージを懸念したからであるが、一つひとつを読んでいくと、実に教育的なアプローチであると感心させられた。

著者は、「罪」について「人間の持つている様々な悪徳であり、怒り、憎しみ、欲望、嫉妬、傲慢、争い、破滅を生み出すものです。人間のもつ弱さや限界と言えるかも知れません」（九一頁）と提示し、「キリスト教において、罪を語らずに人間について語ることができるのか、信仰・希望・愛を説くことはできるのか」（二二四頁）と問いかけ。確かに、現代社会は人間の弱さや醜さ、恐ろしさと向

き合おうとはしない。その傍らで、倫理的テーマは軽く扱われ、人権や尊厳、共生といった理念は蔑ろにされている。著者は、キリスト教が本来人間の弱さや限界の問題に正面から取り組んできた自負を持って、罪について語る。そして、実に多様で、また身近な題材や体験と共に、社会の重要課題について話を進めていく。例えば、戦争で人を殺す仕事を強いられた兵士の心理、民族間に横たわる排外主義や差別、神の領域に踏み込んだ感のある核技術や生命倫理の問題などである。それに加え、「コピペとキリスト」や「大学生の三人に一人が抱えているヒミツ」といった、思わずそのページを開きたくなるタイトルも読者の関心を引くだろう。

なにより、本書で罪について語られる時、著者は自身の

弱さや過去の脆かった体験を隠さない。だから大学生は安心して自らの体験と照らし合わせて課題と向き合うことができるようになっていく。自己認識や倫理的な課題に伴う心配や不安、扱う問題は深刻であるのに、そうした大きなテーマを冷静に見渡す視野へと導かれていく。そして、「弱さを抱えながら、それでも生きていこう」と背中を押される温かみを感じるからとても不思議だ。書籍タイトルの通り、厳しく凍える冬のような現実社会の中にこそ、キリストが伴走してくださることを告げるメッセージである。大学チャプレンとして務めるわたしにとっても示唆に富む書籍で、キリスト教育に携わる方にもお薦めしたい。

(さきはら・こうじ) 桜美林大学准教授

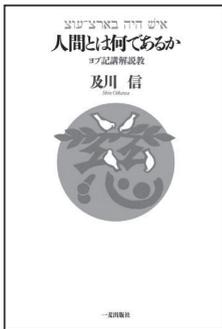
(四六判・三三〇頁・定価二七五〇円・キリスト新聞社)



人間とは何であるか

ヨブ記講解説教

及川信
OIKAWA Shin



現代は様々な分断がある。戦争が止む気配もなく、不条理に満ち満ちている。神さまに「なぜですか」と問う私たち。しかし、実は私たちこそ神さまから問われている。答えようのない問いを考え続けることが求められているのではないか。

四六判・並製
定価【本体2,400 + 税】円
ISBN978-4-86325-164-9



株式会社 一麦出版社

札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888

<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

学校の現場で用いるために

〈評者〉 田中郷史



教会暦による キリスト教入門

前川 裕著



本書は、キリスト教主義学校において、キリスト教を学ぶための入門書として、活用していただきたい書物です。

キリスト教の入門書といえは、イエス誕生のアドヴェントから始まるものが多く、学校や日々のカレンダーと異なるため、季節外れのことを学ぶことになるため、教える側にも、学ぶ側にも違和感を覚えてしまいますが、本書については著者がまえがきで記しているように、イースターから始まっています。暦通りに学ぶことは、私たちが生きていくこの時間軸と合わせることができ、キリスト教を効果的に学ぶことができるのが本書であると言えます。さらに、教会の暦に従って、前半では新約聖書の内容を丁寧に読むことができます。キリスト教史、旧約聖書の内容も、歴史的順序に従って理解することができるので、歴史を勉強している方にも、おすすめしたいと思います。

また、高等学校について言えば、大学入試や模擬試験の新科目「倫理」において、キリスト教の項目においても「聖書科」レベルの知識や理解を求める問題が出題されており、本書はそれを網羅していることから、学校の聖書科において、本書を使用することによって、他教科との関連性からキリスト教の学びを深めることが可能となります。どうしても聖書科という教科は、生徒や学生にとって、授業を受けることが疎かになりがちになるように思えますが、他教科及び大学受験等での関連性があることを知ることによって聖書というものが身近となり、学習意欲も向上するようになると思います。

本書を教科書として、私なりに高等学校の1年間の授業として組み立ててみると、1学期にイースターからキリスト教神学の成立まで、2学期に西洋中世のキリスト教から

クリスマス物語まで、3学期に世界の終末とまとめという形で進んでいくことができるように思います。宗教改革もちょうどよい時期に学べます。高校生には少し難しい箇所や表現もありますが、大学生の教科書として用いるという場合には、特に難しい所もないので、これを用いるにはちょうど良いレベルなのではないかと思えます。ただし、先ほど述べた通り、大学受験や模擬試験における難易度から考えると、本書は社会科学における世界史、地理、キリスト教倫理の分野の教科書の副教材としても用いることができるように思います。

この本書は、著者の授業が元になっているので、聖書科の先生だけでなく、社会科学の先生にも手をとってご覧になっていただきたいと思えます。さらには探究学習を行う

キリスト教シオニズムとは何か

大宮有博



パレスチナでどれほどの人が殺されようと、現在のイスラエル国を支持するキリスト者が多くいるのはなぜか。その思想的根拠であるキリスト教シオニズムの歴史を概観すると共にその問題点を徹底的に分析し、欺瞞を暴き、対抗策を提示する。

A5判変型並製・96頁・定価13200円

ている先生方にもご覧になっていただければ、探究のヒントが隠れているように思います。これからの学校教育の授業を行っていく上で、とてもよい教材として、本書が用いられることを願います。

(たなか・さとし) 日本キリスト教団小牧教会牧師・名古屋高等学校聖書科非常勤講師

(A5判・200頁・定価1980円・関西学院大学出版会)

きのうの教会・あしたの教会 2025±X

越川弘英



変わらずにきた日本の教会は、コロナ禍を経てどのように変わったか。著者自身の経験や分析を交えながら、小さくなくても持続可能な「あしたの教会」になくてはならないものを探る。

A5判並製・160頁・定価2640円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18

☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457

E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格10%税込)

<https://bp-uccj.jp>

問いの前に立たせ続ける姿勢

〔評者〕 関 智征



イエスの語るたとえ
今、あなたはどうか生きるか
本多峰子著



イエスはたとえ話の名手である。そして福音書におけるイエスのたとえ話は、古来より解釈の宝庫であり続けてきた。本書の魅力は、その解釈を通して、読者を「答え」に導くのではなく、むしろ問いの前に自分自身を立たせ続ける姿勢を、静かに、しかし確固として促す点にある。

著者である本多峰子氏は、近年の聖書学の成果を踏まえつつ、牧会者らしい落ち着いた筆致で読者に語りかける。本書では、「第4エズラ記」をはじめとする福音書と同時代の文献も豊富に参照され、たとえ話が語られた歴史的・思想的コンテキストが丁寧に浮かび上がらせられる。イエスの時代の社会状況、宗教的感覚、言い回しを知ることで、福音書のたとえ話は平面的な教訓から解放され、立体的な物語として迫ってくる。

「善いサマリア人」「放蕩息子」「不正な管理人」——い

ずれも耳慣れた物語でありながら、本書では安易な道徳化が慎重に避けられている。私たちが「わかったつもり」になっただけで済ませず、原語のニュアンスに立ち返りながら、何が語られているのかをあらためて考え直す機会が与えられる。当時の西アジアの文脈を意識して聖書テキストを読む時に、私たちが意識無意識にもっているフィルターに気がつかされた。

「金持とラザロ」のたとえでは、「富者が神に祝福されており、貧しい者は呪われている」という当時の人々に一般的だった命記的歴史観による応報思想の中で、いかにイエスのたとえ話がラディカルだったかを思い出す。「宝物」と「真珠」のたとえでは、世の富や世の地位を絶対的なものとして追い求めてしまう私たち自身を鏡でみるような感覚にさせられた。

私たちが前提にしていた解釈を文献学的な裏付けから見直すべきかが本書にはある。「ぶどう園の労働者」のたとえでは、ユダヤ人にかわってキリスト教徒が神の民となったというスパーセツシヨニズムを一部のキリスト教徒が望んだ形にゆがめられた解釈として避け、どの民もすべて神の国に招かれていることを文脈も踏まえて語る。とりわけ印象深いのは、「ファリサイ派の人と徴税人」のたとえにおけるファリサイ派の位置づけである。キリスト教の伝統の中で、ファリサイ派はしばしば偽善者として描かれてきた。しかし当時の文脈において彼らは、むしろ宗教的な真摯さと敬虔さで知られる存在であった。その前提に立つとき、このたとえが当時の人々にとっていかに意外で、挑発的であったかが鮮明になる。

黙想シリーズ

聖書 聖書協会共同訳

日々の黙想

今ここに 気付く

150の祈りと瞑想

各黙想に、
聖書の言葉と
瞑想の実践法を掲載
対象中学生から

神と共に自分自身でいるために
クリスチャンのための
マインドフルネス実践入門



著者

NEW



アイリーン・クレイゲル 著
(心理学者)

合成皮革装・スリーブ入

天地175×左右110mm 360頁

税込価格 2,640 円

ISBN978-4-8202-9294-4



JBS 日本聖書協会

■お求めは全国のキリスト教専門書店
〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
<https://www.bible.or.jp>

そこで最終的に読者に突きつけられるのは、「現代をどう生きるのか」という切実な問いである。答えを所有することではなく、問いと共に歩み続けること。その営み自体が信仰であり、思索であり、希望なのだということを、本書は静かに示してくれる。

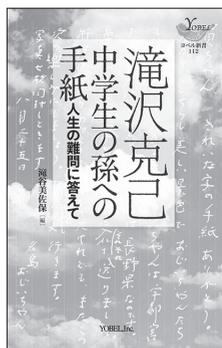
解釈の多様性を恐れず、むしろそれを楽しむための確かなナビゲーション。たとえ話を読む喜びを、あらためて私たちの手に取り戻させてくれる一冊である。

(せき・ともゆき) 日本キリスト教団行人坂教会牧師

(新書判・二一六頁・定価一五四〇円・ヨベル)

滝沢克己の精髓・哲学すること を語りかける良書の復刊

〈評者〉 小林孝吉



中学生の孫への手紙
人生の難問に答えて

滝沢克己著
滝谷美佐保編



人は、古今東西その年齢を問わずに、だれもが人生の根本問題に逢着する。その問いは、この一回限りの生をどこまでも人として、他者とともに、真に幸福に、自由に愛し生きたいという生命^{いのち}の芯の望みと結びついているのである。

宮沢賢治と芥川龍之介から一字ずつとり「賢介」と名づけられた、当時一二歳の少年は、元九州大学教授・滝沢克己（一九〇九〜一九八四年）の中学生の孫である。中学生になって、ほとんど笑うこともなくなった、所沢に住む賢介は福岡の祖父・克己に、一枚のハガキを出した。「おじいちゃんに聞きたいけどキリスト教や仏教とはどういうことが言いたいのですか。（中略）人間が生きるためなら、動物を殺しても仕方ないのですか？ 後、人間は何のため生きてるのですか。後、死んでもたましいは残ります

か」（滝谷美佐保「編者あとがき」と）。

滝沢は、戦前に西田哲学からバルト神学へと、ナチズム下のドイツ留学を経て、山口高商で若き学生たちに哲学・倫理を講じ、戦後は仏教とキリスト教、六〇年代には大学闘争にも関与し、神学、哲学から文学、経済学へ、最後は身心論、純粹神人学まで至った神学者・哲学者である。そこには、バルトが『ローマ書』で指し示した「イエス・キリスト」（神人の原関係）Ⅱ「インマヌエルの原事実」（神われらとともに在り）が生き、生命の水の河が地下水脈のように流れるとともに、一人のキリスト者の生涯がある。

克己は、賢介が直面した人生への問いと向き合い、八二年八月から八四年四月、中学一年から三年生まで、最晩年に孫へと宛てた七通の手紙を書き送った。世の人が顧みない難問を問う賢介への返信が、八三年二月八日付の手紙で

日本における聖書普及
事業150年記念出版

旧約聖書 詩篇

四訳対照

文語訳 口語訳
新共同訳
聖書協会共同訳

歴代の聖書を、
詩篇で読み比べ、
味わってみませんか。



ハードカバー・ケース入

天地210×左右210mm
文字の大きさ約8ポイント
厚さ29mm 422頁

定価 **3,960円**

(本体 3,600円 + 税 10%)

ISBN978-4-8202-4276-5



JBS 日本聖書協会

■お求めは全国のキリスト教専門書店
〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
<https://www.bible.or.jp>



ある。克己は、人間の生きる目的、キリスト教や仏教の真実、ナザレのイエスとインドの釈迦の生涯、動物と人、物の絶対の平等性、神の空間で生きることなど、すべての根本に、初めの時から終りの時をつらぬく「生命の真理」＝「神の愛」——インマヌエル！——の實在を愛情こめて書き表そうとする。それは孫へ、此処に生きるすべての人へと告げる「いのち、そのもの」の言葉（道）なのだ。「心安かれ！」「汝の罪ゆるされたり、起ちて歩め」と。

祖父の克己にも、賢介と同じような体験があった。真夏の午後に、中学一年の学校からの帰路、小川で老農夫が水車を踏んでいたのを見たとき、ある不可解な問いに襲われた。このおじいさんは、水車を踏んでいったい何処に行くのだろう、と。その六〇年後、死の一年前に、克己は手紙

にこう書く。「いのち、そのもの、それ自身生きている永遠の愛であり光であり力である何もものかとすべての人、一々の人との結びつきは、人間がそれを忘れて本当の主でもあるかのように思い上げる（58頁）罪のはたらきによつて、一厘一毛といえども揺らぐことはありません」（八三年九月五日付）。

本書は、滝沢神学を知り、インマヌエルを無条件に「すべて、人の成立の礎」とする独立伝道者・荒井克浩氏の「滝沢克己先生との出会い」と、「新版にあたっての編者あとがき」が新たに収められた新版として、SNS・AI時代を生きる若い人たちに、困難とともにあるすべての人に、この新「孫への手紙」は永遠の希望を伝えるであろう。

（こばやし・たかよし）文芸評論家・NPO法人滝沢克己協会理事長
（新書判・一二八頁・一三二〇円・ヨベル）

自律から協働律へ

〈評者〉 関川祐一郎

本書は「『共生の』神秘」と題し、「キリストとの共生」に焦点を当ててキリスト教神秘主義を論じるものである。新約聖書の時代から近代に至るまで、キリスト教神秘思想がいかに受容され、発展してきたか、その歴史的展開が簡潔に示されている。

本書では、時代に沿って約40名の神秘主義者たちが取り上げられており、節ごとに人物の紹介と思想の特色が簡潔にまとめられている。そのため、人物と思想の特徴が立体的に把握でき、全体としてきわめて読みやすい。

金子晴勇氏は本書冒頭で次のように述べる。「わたしたちが問題にする神秘思想は、あくまでもキリストとの交わりと一体感から生まれる人格的な神秘主義であって、これはキリストに対する信仰から起こってくる事態です」（8頁）。金子氏はここで、キリストとの交わりと一体感から



キリスト教
思想史の例話集Ⅲ
「共生」の神秘
金子晴勇著



生じる人格的神秘主義を強調する。それはキリストとの共生による「同形化」を意味し、このことこそが「わたしたちの生命であり、生きる源泉」であると述べる（8頁）。

では、今この時代に「キリストとの共生」を語る意味は何か。本書のあとがきに触れると、その目的がより明確となる。金子氏は「敗戦後80年を経て、多くの人々が『自律』して行動するように努めてきた。しかし、自律がいつの間にか『自己主張』に変質してしまった」とした上で、『自律』だけで良いのかと反省するようになった」（244頁）と記す。

戦後80年を経て、「自律」から「協働律」・「共生」への転換の重要性を著者自身が強く感じているのである。この問題意識のもとで本書を読み進めるとき、キリスト教思想史に一貫して流れる一本の線が浮かび上がる。それが「キ

リストとの共生の神秘」である。さらに金子氏は、今日的課題として「自律」から「協働律」へと生き方を根底から転換する必要性を示している。

キリスト教神秘主義者に共通するのは、キリストにあって神と合一するというテーマである。それはパウロ以来の「キリストにある」という特徴を受け継ぎ、ベルナルに始まる「花嫁―神秘主義」へと発展し、宗教改革者たちにも少なからぬ影響を与えた。金子氏は、特にルターにおいて「共生の神秘」が展開され、神秘的合一が「キリスト―神秘主義」という性格規定を根本から受けていると指摘する。ルターの神秘思想は、信仰によるキリストとの交わりに基づけられ「自己に死し、他者の生命に生きる」信仰に立つ思想として一貫して説かれている(122頁)。さらに、

この神秘思想は、近代日本の教会を導いた牧師たちにも確かに流れ込んでいる。金子氏は、植村正久の説教の特質として、彼が「共生の神秘」を志向したことを強調する。また植村自身「近代人が自我性、すなわち自己主張欲に陥る危機を洞察していた」と述べ、「現代人は自我の肥大化によって神の姿を見失い、超越的力を見失って良心が弱体化し、消失する」(203頁)と警告している。この指摘は、戦後80年を経てきた著者自身の問題意識とも深く響き合う。本書を通してキリスト教神秘主義の発展史をたどること、読者は自らの信仰を省みる視点を与えられ、キリストと共に生きる喜びへと招かれるだろう。信仰と学びが響き合う書として、多くの読者に薦めたい一冊である。

(せきかわ・ゆういちろう) 日本基督教団井草教会牧師
(新書判・二六四頁・定価一五四〇円・ヨベル)

神学ダイジェスト139号

急速な変化を遂げる現代社会。その中において、多様な価値観に直面するキリスト者。本誌は海外の神学動向を紹介しながら、現代人のかかえる信仰への真摯な問いに光をあてる。

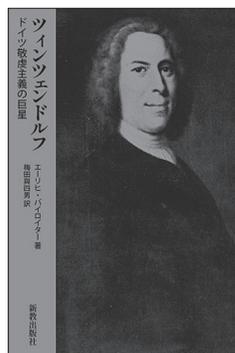
2025年12月発行
A5版120頁
定価638円(税込)

特集 人間の安全保障とカトリック教会
「核兵器の保有そのものが倫理に反する」 S・アガスティン
倫理的・政治的に有用な「人間の安全保障」のために E・ギレン
安全の必要と限界―神は我が若― R・A・クイン
安全の必要性を神学する K・ウェンツェル
「正しい戦争」「正しい平和」 L・S・ケイヒル
ニケア公會議一七〇〇周年記念文書について A・B・ド・デーム
文明と一神教 T・レーマー
パウロ書簡の教会論についての研究 J・N・アレックス
箴言における注意喚起の技法 R・J・クリフォード

上智大学神学会
神学ダイジェスト編集委員会
東京都練馬区上石神井4-32-11
〒177-0044 Tel & Fax (03) 3594-4349
E-mail shing-dt@netjoy.ne.jp

波乱に富んだ目をみはる生涯

〈評者〉立山忠浩



ツインツェンドルフ
ドイツ敬虔主義の巨星
エーリヒ・バイロイター著
梅田與四男訳



本書はライプツィヒ大学やエアランゲン大学などで教鞭を執ったエーリヒ・バイロイターによるニコラウス・ルートヴィヒ・フォン・ツインツェンドルフ（以降ツインツェンドルフと略す）の評伝の翻訳である。翻訳者は梅田與四男氏で、すでに『敬虔主義』（デイル・ブラウン、キリスト新聞社、二〇〇六年）、『ドイツ敬虔主義』（ヨハネス・ヴァルマン、日本キリスト教団出版局、二〇〇六年）そして『エルムート・ドロテア・フォン・ツインツェンドルフ伯爵夫人』（エリカ・ガイガー、リトン社、二〇一九年）の翻訳を出版されている。これらのタイトルから分かるように梅田氏の研究テーマは一貫して「敬虔主義」であるが、誤解と偏見に晒されて来た敬虔主義の理解を正したいという切なる思いが込められているように思う。それは使命感とも言い換えられよう。

本書ではツインツェンドルフの生涯が丁寧に描かれている。ゆえに彼の神学あるいは敬虔主義の神学のことによくの字数は割かれていない。その生涯は幼い時から波乱に富み、ヨーロッパ中（グリーンランドも含む）に留まらず米国までも足を踏み入れる姿は驚きの連続である。人生のすべてを世界宣教のために献げた生涯は目を見張るものがある。

彼の活動はヘルンフト（あるいはヘルンフト兄弟団）での働きが最も知られているが、それがどのようにして造り上げられ、そしてその後どういう経緯を辿るのかまでは十分に知られていないのではないだろうか。ボヘミアからのモラヴィア人亡命者たちを招き入れるためにヘルンフトの森を開拓し、そこに新たな居住地を造成したのである。その他に様々な避難民たちもヘルンフトには招か

れてゆくが、周囲の理解を得ることは容易ではなかったに違いない。しかし様々な困難の中で実現してゆくのである。

結局のところツインツェンドルフとはいったい何者だったのか。この問いが評者の中にとどまり続けた。本書の副題が「ドイツ敬虔主義の巨星」とあるように、類まれな才能を持ち合わせていたことは間違いない。語学に堪能であり、人々を対話で説得する能力に長け、困難な状況に陥っても乗り越えて行く。帝国伯爵という高位を受け継ぎ、それを誇りともしていた。三十四歳でテュービンゲン大学の付属教会の説教壇に立つことが許されたが、帝国伯爵の特権を放棄することなく、宮廷生活を続けながら自らを「巡礼教団」と呼んだ。これだけでも特異な存在であった。ただ彼はルター派に立ち続けようとした。事実「アウグスブルク信仰告白」を受容していた。しかしそこに立ちながら敬虔な信仰や世界宣教の道を広げてゆく。ゆえに「アウグ

スブルク信仰告白」の否定ではなく、さらなる解釈、展開、信仰表現だったように評者には感じられたが、後はそれぞれの判断に委ねよう。

梅田氏は評者の神学生時代から旧知の仲で、すでに牧会者であったが（ルター派ではなかったが）、日本ルーテル神学校で受講されていた。牧会の体験から多くのことを教えていただいたが、その頃から真の求道者であったことを思い起こす。これまでの翻訳に加え『ツインツェンドルフの神学』（仮題）を出版準備中と聞く。ツインツェンドルフの宣教への飽くなき情熱は、きつと同氏の使命感に受け継がれているのであろう。是非読んでいただきたい良書である。

（たてやま・ただひろ 〓 日本ルーテル神学校前校長・日本福音ルーテル教会引退牧師）

（四六判変型・三三〇頁・定価二九七〇円・新教出版社）

現代世界の混迷の源を 神学的に照らし出す

〔評者〕 鏑木政彦



神学と社会理論 世俗的理性を超えて

ジョン・ミルバンク著
原田健太郎訳



ジョン・ミルバンク『神学と社会理論——世俗的理性を超えて』（原著初版一九九〇年、改訂版二〇〇八年）は、現代神学における記念碑的著作と呼ぶにふさわしい一冊であり、ケンブリッジ大学を中心に展開したいわゆる「ラディカル・オースドクシー」運動の出発点となった。キリスト教と近代世界の関係に関心をもつ読者に、広く手に取ってほしい書物である。

近代世界とは、どのような世界なのだろうか。マキアヴェリやホッブズの政治学が示すように、近代政治は道徳や宗教から切り離された自律的な領域として構想されてきた。アダム・スミスの経済学においては、資源の分配は市場の自律的なメカニズムに委ねられるべきだと考えられるようになる。さらにデュルケムやウェバーの社会学では、宗教は社会的統合の機能や価値意識の一要素として説

明される。こうした意味で近代世界とは、世俗化のメタナラティブが支配する「世俗的理性」の時代である。上記の社会科学者の理論をさばくミルバンクの腕前は本書の醍醐味の一つであろう。

ところで、近代以降の神学も、ミルバンクの視点から見ると、この支配的な枠組みに適応するかたちで存続してきた。本書では論じられていないが、よく知られたプロテスタント神学者をミルバンクはおそらく次のように評するのではないだろうか。パウル・ティリッヒの神学は、キリスト教と世俗化された文化との関係を相関的に説明しようとするが、それでは世俗的理性は前提として承認されてしまう。ラインホルド・ニーバーは罪の現実を強調するあまり、政治的暴力というマキアヴェリ的な世俗的理性を容認してしまっている。カール・バルトは、世俗と超越の相関

主義を拒否する点でミルバンクの立場に近いが、社会を語る存在論を欠き、社会科学に浸透した世俗的理性を神学的に解体するには至らなかった、と。

では、ミルバンクはどのように世俗的理性を批判するのだろうか。評者が重要だと考える点は三つある。

第一に、世俗的理性の起源として、マキアヴェリ的な「異教主義」と並び、ドゥンス・スコトゥスの主意主義神学を挙げている点である。世俗化はキリスト教の外部から生じたのではなく、神学的に構成された問題であり、したがって神学的に再検討されなければならない。ミルバンクは、総じてプロテスタントイズムに厳しい評価を下しているが、それはプロテスタントイズムが世俗的な近代を作り上げる役目に加担してきたからであり、それを乗り越えるには真のカトリシズムが必要だとする。

第二に、世俗的理性に基づく哲学や神学が、ポストモダンに至って差異の存在論を肯定するニヒリズムへと行き着いたという分析である。ミルバンクはニーチェやハイデgger、フランスのポストモダニストを詳細に検討し、ポストモダンの差異の倫理学がアゴン（闘争）的政治に近づき、ファシズムと区別し難くなる所以を明らかにする。ファシズムは、主意主義的神学が切り開いた近代の行き着く先で

あり、現代の新自由主義もその一形態にすぎない。ゆえに、それに対抗する理論的ヴィジョンが求められるのである。

第三に、アウグスティヌスの批判的再読を通じた対抗的ヴィジョンの提示である。ミルバンクはヘーゲルやマルクスを近代世界への対抗的思考として評価しつつも、神の実在性を欠いた弁証法は世俗的理性を克服しえないとし、キリスト教のメタナラティブこそが、異教主義と主意主義神学によって形成された世俗的理性を超える可能性をもつとする。世俗的理性は全体と部分、魂と肉体を切断し、個人主義的に解体した世界を力の関係として理解するが、ミルバンクはそれを一つの物語にすぎないとし、愛を核心とする「存在論的平和」という別の物語を提示するのである。

ミルバンクは雑誌『タイム』において、「神学者たちが学術界における地位を取り戻す道を開いた思想的革新者」と評された（二〇〇一年一月一七日号）。この評価は著者と本書の国際的影響力をよく示しているが、日本における認知はなお十分とは言えない。だからこそ本書の邦訳を心から歓迎するとともに、多大な労力を払われた翻訳者の原田健二朗氏に深い敬意を表したい。

（かぶらぎ・まさひこ）九州大学大学院比較社会文化研究院教授

（A5判・七〇〇頁・定価九三五〇円・新教出版社）

赦しは教会の外に 向かってあるのか?!

〈評者〉川上直哉

本書は「赦そう」と志す人を助けるための本です。「赦さなければ」という思いを持つ人を読者として想定しています。たとえば「赦してこそ、赦されるのだ」ということを「本当にそうだ」と思っている（信じている）人のために、この本は書かれています。

そうした人の多くは、クリスチャンだ、という事でしょう。毎週一度、聖書の言葉を用いて行う「デボーション」が、本書の前半に配置されています。そして後半には、具体的に手と目と口、時には足を使つての「エクササイズ」の指南書が配置されているのが本書です。

本書の著者は米国人夫婦です。夫婦ともに「クリスチャン・カウンセラー」を生業なわにしておられるようです。神学の教育を受けた「カウンセラー」で、特に「結婚生活」のコーチングに実績があるようです。カウンセリングの現場



どうすれば
赦せるようになるのか

52週の旅路

クリス&

ジェイミー・ベイリー著

田尻潤子訳



で「旅」あるいは「出エジプトの旅」をイメージとして活用し、「赦し」への歩みに同伴してくれる。そんな著者の本です。「クリスチャン・カウンセラー」とは、つまり「牧師」の仕事を教会の外でする専門職であるようです。

本書にはたくさんの聖句が提示されています。キリスト教の神話的イメージが活き活きと用いられています。でも「教会」は、ほとんど姿を見せません。「賛美を積極的に活用する」というエクササイズのために「教会に足を運ぶという方法もありますよ」と付言する一か所だけで、「教会」が語られているようです。

その代わり、でしょうか。本書には、たくさんの具体的な顔と名前が登場します。みんな「赦す」ことに苦勞している人々です。生々しく、その人・その人の物語があり、一人ひとりの・一つひとつの痛みがある。そのことに肉薄

し、どうしようもなく^{たまたま}佇みながら、神様の救いを信じて祈り・御言葉に沈潜し・エクササイズを試してみる。そんな息遣いと体温が感じられるのが、本書です。

本書を読みながら、教会の牧師である私は、考え込みました。そして、私の体験を二つ、思い出しました。

私が本格的に牧師になった時、一つの決心をしました。私は「赦すこと・祝福すること」にだけ、専心しようと決心しました。人が集まる／集まらない、献金が集まる／集まらないは意識しないことに、決めました。そして私は、赴任した教会のある町の二つの教会と合同の「学習会」を企画しました。そのテーマは「赦すこと」でした。脳科学の本を読んで、信徒の方々に分かりやすく紹介する、という学習会を持ちました。「教会」の枠組みを少し緩めることで、科学の入る隙間を空ける。そんな感じだったと思います。「クリスチャン・カウンセラー」が教会の外で活躍する、というのは、あるいは、そういう事なのかもしれません。でも、この私たちの試みは「コロナ」で中断してしまいました。

「コロナ」の騒動の中で、オンラインの催事が始まりました。ほどなく「教会に行けなくなったクリスチャン」が、たくさん、つながってくださるようになりました。その

方々を実際に訪問し、聖餐を共にする、ということが始まりました。「出張聖餐」です。私は、「いつか元の教会に戻れるように」と祈りつつ「宿り木」のような役割を果たせればと願っています。先日、その「出張聖餐」の時に、本書を用いてみました。参加した数名で、ゆっくりこの本を読み、考えました。

本書は「簡単には、赦せないですよ」と、随所で語ります。「再犯」がおさまらない場合は例外です。そのような人とは距離を置き、先へ進むのが良いでしょう」と、優しいのです。でも私は^{きょうかいし}教誨師ですから、「あら……」と、立ち止まってしまいます。

本書は、優しい。「正しい御言^{みことば}」を、講壇の上から權威をもって語るようなことは、しない。「赦せない読者」に寄り添い、「どうしたら赦せるようになるだろう」と、歩調を合わせてくれます。確かに、これは教会の言葉ではない、かもしれない。

そんなことを考えながら、本書をゆっくり読んで、聖餐式をする。「赦せない私」を許してくださる神様の愛を思う。「赦せない」ことの結果生じてくる私たちの軋轢を、命を捨てても、引き受けてくださる神様の愛を、「最後の晩餐＝聖餐」の食卓で、思い知らされる。ああ、何とい

う、恵み・恩恵——。

今、教会は不要とされてきているのかもしれない。日本では教会は「絶滅危惧種」と同じ頻度で消滅しつつある。との統計も聞きました。そして、例えば米国では、教会の外に「クリスチャン・カウンセラー」が活躍している。教会の外に、クリスチャンがたくさんいる。その方々のために、この本もある。教会は、本書の前に、謙虚になって、教会の外へ踏み出し、教会の外の方々に仕えるように、招かれているのではないか。

そんなことを考えながら、本書を読み終えたことでした。「教会の外のクリスチャン」と共に、この本を読まなければ。そう思いました。

(かわかみ・なおや // 日本基督教団 石巻栄光教会牧師、東北ヘルプ代表)

(四六判・二七二頁・定価一九八〇円・ヨベル)



アルノ・グリューン著
村椿嘉信訳
第5刷出来…好評発売中
B6判変型・一六〇頁・
八八〇円

従順という心の病

私たちはすでに従順になっている

評・工藤信夫氏 「従順」が良しとされる文化と、信仰の世界に再考を迫る、すぐれた洞察の書である。

長い間、日本の教会と信徒の心の病理に注目してきた評者にすれば、「従順」を良しとしてきた日本人の信仰心には、多分に「服従」という美名のもとに「思考停止」という要素が入り込んでおり、この力は足並みのそろわないものを排除して「均一化」を求め日本の教会が思い浮かんでくる。

日本人の信仰を吟味する、再生の書と言ってよい好著である。



アルノ・グリューン著
村椿嘉信 / 松田眞理子訳
好評発売中
B6判変型・二〇〇頁・
在庫僅少 九九〇円

ヨベル YOBEL, Inc. 詳細は <http://www.yobel.co.jp>
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1 Tel 03-3818-4851 Fax 03-3818-4858 (税込)

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用			02350-0-874
エッセイの木	980-0012	仙台市青葉区錦町1-13-6 エマオ1F	022-223-2736	022-302-6678	https://essainoki.jp/	shop@essainoki.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区新館2-2 千葉カリアセンタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vestia.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
待星堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taishindo-books.jimbo.com/	taishindo@jcom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス東京	169-0051	新都区早稲田2-3-18(A/C0ビル2F 通称専門)	03-3203-4137	03-3203-4186	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
東京キリスト教書店	112-0014	文京区目黒1-44-4 塚原ビル101号 新内(外販専門)	03-3260-5663	03-3260-5637		tokyo@nikkihan.co.jp	00130-3-60976
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.tuighte.net/~yokohama-us/index.html	sksch@mvva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	466-0045	名古屋市中区大須16 日教キリスト教図書協会内	052-680-8090	052-680-8091	http://nagoya-seibunsha.la.cococan.jp/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
バイブルハウス京都	606-0007	京都市北区新堀2-2 日本基督教団平野教会(外販専門)	090-5138-7020	075-320-1844		kyoto-ibs@bible.or.jp	01010-2-594
バイブルハウス堺	591-8023	堺市北区中百舌島町2-87 チャペルこつり2F	072-255-4970	075-255-4971		sakai-ibs@bible.or.jp	00160-2-18410
大阪キリスト教書店	552-0003	大阪市港区灘2-2-18 港ルーツ教会1F	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osekacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
堺キリスト教書店(聖燈社)	591-8044	大阪府堺市北区中長尾町2丁1-18	072-254-2233	共用		sakaixx@outlook.jp	00970-0-172228
神戸キリスト教書店	650-0025	神戸市中央区船生町4-5-2 神戸駅前ビル401	078-331-7569	078-945-9388		kobex@nikkihan.co.jp	00170-2-421390
広聖聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
リバーサイドブックス	779-1105	徳島県阿南市羽ノ浦町古庄大道/西13	090-8694-4986	050-3142-3017		ykwbtf3@gmail.com	16220-17974891
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/matsuyama_1007/mbs.html	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市中央区大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	904-2143	沖縄県沖縄市知花4丁目12-33	098-927-0220	098-938-1102	https://www.okinawacbs.net	info@okinawacbs.net	01790-4-152916

※一般書店関係の方は 日キ販販売部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

■教文館 日本伝道論

加藤常昭著

どうすれば日本伝道は前進するのか？（伝道を妨げている「壁」は何か？）そのため教会がすべきことは何か？ 現代日本を代表する説教者が遺した講演集。 四六判・342頁・定価3190円

同志社大学人文科学研究所研究叢書

占領期日本の教育再建と越境キリスト教

吉田 亮編著

戦時下の在米日系人の強制収容と戦後日本の教育再建はどのように交差するのか。復興期における人間形成と社会の再編成に宗教が与えた影響を究明する。 A5判・388頁・定価7480円

神学と文体

アジア・キリスト教神学の表現と「抒情伝統」をめぐる

金 承哲著

現代の「虚無」と「空」の世界で求められる神学的表現とは何か？西洋の表現技法に並び、宗教的境地を描く東洋の詩文学に学び、人の心に響く新たな神学的文体を示す。 A5判・410頁・定価6820円

改革派説教

牧田吉和著

教義学者として半世紀を超えて神学教育と伝道に携わってきた著者が、地方教会の説教壇という「生活の座」から書き上げた神学的説教論。伝統的なキリスト論的な視点に加え、聖書の働きの独自性とその実践神学的意味に着目した、新しい時代の説教学教本。 A5判・490頁・定価6600円

■新教出版社

排斥と抱擁

アイデンティティ・他者性・和解の神学

ミロスラフ・ヴォルフ著 彦田理矢子訳

異質な者を憎悪し、排斥しようとする者を、私はどのようにして愛し、抱擁することが可能なのか。暴力が猛威を振るう世界の中で和解の道はあるのか。凄惨な旧ユーゴ内戦を経験した著者は、本書を、

INFORMATION

近刊情報

自らの知的葛藤の記録であると同時に霊の旅路の記録とも呼ぶ。待望の邦訳。 A5判・552頁・予価7700円

聖書翻訳と宣教

——日本語訳聖書関連資料の研究

吉田 新著

日本語訳聖書は口語体から文語体、そして再び口語体へと変遷していった。本書はこの文体の変遷に注目し、膨大な資料に基づいて、狭義の言語論を超えて宣教論の観点から新たな翻訳論を切り拓こうとする。 A5判・336頁・定価6600円

ビリー・グラハム

——ひとりひとりの魂と向き合う

グラント・ワッカー著 相川裕亮訳

第二次大戦後のアメリカで最大の福音派伝道者の評伝。その生い立ちから精神形成期の歩み、そして頭角を現し歴代大統領に大きな影響力を振るった経緯を、グラハム研究の第一人者が詳細に記述する。原書二〇一九年の最新評伝。 四六判・536頁・予価4950円

■ヨベル

敬神奉仕

——東洋英和女学院大学礼拝説教より

堀川敏寛監修

本書の目的は、学院のスクールモットーである「敬神奉仕」という理念が東洋英和の教育と宣教の実践に根ざしていることを示すとともに、このモットーが聖書全体の文脈に結びついた根幹的な理念であることを明らかにすることにあります。 四六判・240頁・予価1800円

死生学年報

2026

東洋英和女学院大学死生学研究所編

本書は、「死と再生」及び「葬送と墓制の現在（続）」を特集として編まれています。連続公開講座で取り上げられてきた論考を年報としてまとめております。リトーンから引き継いだ2年目の書籍。 A5判・240頁・予価2500円

戸惑いながら信じてる50

——新型キリスト教入門 その2

富田正樹著

好評をいただきました「疑いながら信じてる50」の第2弾です。富田節がまたしても炸裂、歯に衣着せぬ語りかけに、読者はほっこりして、キリスト教の真髄を考える一助になる。前者は同時に重版します(3刷)。
四六判・240頁・予価1500円

持つて生まれたことば(ロゴス)を生きる

——ヤコブ書 試訳・註・メッセージ 深澤 奨著

パウロ大先生を正面切って批判する過激で危険な書物が新約聖書に紛れ込んでいた?!このヤコブ書は、確かに正統派の教会から見れば、過激で危険な書物です。見事に料理して、これまでのヤコブ書のイメージを一新する内容。
四六判・220頁・予価1700円

■日本キリスト教団出版局

宮本久雄著作選集 3

エヒエエロギア ——自らを超えゆく神の探究

宮本久雄著

根源悪を超克すべく、他者との相生に向けた存在(脱在)論構築を示し、その体現者として石牟礼道子や良寛等を扱う。
A5判・314頁(予定)・定価4620円

V T J旧約聖書注解

サムエル記上16〜31章

勝村弘也著

ダビデ物語、殊にダビデが王とされる物語からサウル王の死までのテキストを、原文を忠実に解釈してゆく。
A5判・424頁(予定)・定価未定

V T J旧約聖書注解

列王記下3〜14章

山我哲雄著

エリシヤ物語を中心とした南北王国にまつわるテキストを、周辺諸国の史料なども鑑みつつ考察してゆく。
A5判・400頁(予定)・定価未定

マルコによる福音書

——説教準備と説教例

越川弘英監修

マルコ福音書全体を45回で説教するためのガイドブック。45單元分

INFORMATION

近刊情報

の「説教準備のスケッチ」(釈義と黙想)と「説教例」を掲載。

A5判・304頁・予価4000円

神学は語る

ファンダメンタリズム

ピーター・A・ハフ著 藤原淳賢、豊川 慎訳

実は近代発祥の新しい現象だったファンダメンタリズム。その出現・展開と研究史、キリスト教のみならずイスラム、ユダヤ教など他宗教での現れをも概観する。
A5判・266頁・定価4070円

みんなで平和を

——続・非暴力の教育

小見のぞみ著

世界に暴力が満ちる今こそ、教会、園、学校、家庭を「いっしょに生きる」場とする教育、一人ひとりが平和をつくりだす者となるための教育を語る。
A5判・148頁(予定)・予価1980円

收容所からの手紙

——フリリン捕囚宣教師の記録 1942-1945(仮)

フランク・ケリー著 北垣宗治、森永長壹郎訳

アン・ケリー監修 若松大祐編
太平洋戦争中ダバオとマニラの收容所で抑留された宣教師が、強制労働、食糧不足の極限状況の中、マニラ市街戦まで家族に宛て密かにしたため続けた貴重な手紙。
A5判・240頁(予定)・予価3080円

エフエソの信徒への手紙を読もう —— 神の極彩色の世界

深澤 奨著

キリストにおける多様性と一致がテーマのエフエソ書を、平和や人権、国際問題、ジエンダーなど、現代の課題を切り口にギリシヤ語から読み起こす。
四六判・160頁・定価1980円

アモス書を読もう

並木浩一著

正義と公正こそ神の重大な関心事であると語るアモス書を、著者による私訳と詳細な解説を通じて深く味わう。
四六判・184頁・定価2420円

福音と世界

2026年3月号

特集Ⅱキリスト教と政治
政治神学の可能性

寄稿者Ⅱ加藤喜之、岡野彩子、伊藤孟、
森島豊、三野和恵、洪伊約

◆時評 トランプ政権の大学弾圧(木村智) ◆連載
人物・日本キリスト教史(戒能信生) ◆ぼやき
牧師のさすらい説教録(富田正樹) ◆異端者の世
界航海(福嶋揚) 証言としての旧約聖書(田島卓)
／新約釈義ルカ福音書(山崎ランサム和彦)、他

A5判・定価660円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyo-pb.com

から室集編

半世紀以上にわたり、キリスト教書を刊行してきた日本キリスト教団出版局が事業整理・縮小することになりました。さまざまな仕事、職場を経験してきたわたしにとって15年は一番長く働いた職場です。最初の10年は『信徒の友』『こころの友』の編集者でしたが、一般の出版社で長く働き、自身はカトリック信徒という、いわば異分子のわたしを育ててくれたのは紛れもなく『信徒の友』『こころの友』の執筆者、そして取材などで訪れた教会の皆さんでした。その後の書籍の仕事もこの10年間のストックのおかげで、いろいろな企画を練ることができました。惜しむらくは、それらを書籍化すること自体が容易ではないのが実情だったことです。今回の事実上の事業終

予告

本のひろば

2026年4月号

本・批評と紹介

(巻頭エッセイ) 小松加代子「女性のための本屋」(書評) 崔炳一著『植村正久と日本の教会』、M・L・ベッカー著『総説キリスト教神学』、上田光正著『バルト神学への道しるべ』、濱和弘著『傘の神学Ⅱ 特殊啓示論』 他

了に際して思うのは、専門書や信徒の養いのための本だけでなく、クリスチャンではない方々にも読んでもらえるような本をもっと戦略的に出せなかったのだろうかということです。信徒数が減っているキリスト教界で本を作っているだけでは、版元や書店の存立が危うくなるのは自明のことです。収益事業と伝道は両輪であることをあらためて思います。販路をキリスト教界外に広げることが容易なことではありませんが、それこそが伝道ではないかと思わされます。今回の出来事で、わたしは神さまから「アウェイで伝道せよ」と呼びかけられているような気がしています。今後どのようなかたちになるかわかりませんが、既成の概念にとらわれずに、文書伝道に用いられる器でありたいと願っています。またいつか、きつとどこかでお会いしましょう。

(市川)

〈在米日系人史〉と
〈戦後日本教育史〉の交差史!



戦時下の在米日系人の強制収容と戦後日本の教育再建はどのように交差するか。復興期における人間形成と社会の再編成に宗教が与えた影響を究明する。

同志社大学人文科学研究叢書

占領期日本の教育再建と越境キリスト教

吉田 亮〔編著〕

●A5判・370頁・定価7,480円

日本伝道論

加藤常昭〔著〕

伝道とは何か? 教会とは何か?

日本人に「罪」はわかるのか? 日本伝道を阻む「壁」とは何か? どのような教会を形成すればよいのか? 日本の教会のリヴァイヴアルを祈り願った著者が、「伝道」と「教会形成」をめぐる語った講演と論文8篇を収録。



●四六判・342頁・定価3,190円

好評発売中!

平野克己編

『聞き書きの

加藤常昭

●四六判240頁・定価3,300円
説教・伝道・戦後をめぐって』

神学と文体

アジア・キリスト教神学の
表現と「抒情伝統」をめぐって

金承哲〔著〕

語り得ない神を、
如何にして語るか?



仏教と自然科学による「虚無」と「空」の自覚は、如何に神学的に表現されるか。東洋詩文学の「抒情伝統」に学び、現代アジア人の心に響く新たな神学的文体を探る。

●A5判・410頁・定価6,820円

好評発売中!

金承哲

『遠藤周作と探偵小説

●A5判・410頁・定価3,520円
痕跡と追跡の文学』



排斥と抱擁

アイデンティティ・他者性・和解の神学

ミロスラフ・ヴォルフ著／彦田理矢子訳 異質な者を憎悪し排斥する者を、愛し抱擁することなどできるのか。凄惨な旧ユーゴ内戦を経験した著者は、罪と赦しの問題を、幅広い論客と対話しつつ十字架の神学に基づいて徹底的に考え抜く。
A5判・定価79200円

聖書翻訳と宣教

日本語訳聖書関連資料の研究

吉田新著 日本語訳聖書は口語体から文語体、そして再び口語体へと変化していった。本書はこの文体的変遷に注目し、膨大な資料に基づいて先人の労苦の跡を辿り、狭義の言語論を超えて宣教論の観点から新たな翻訳論を切り拓く。
A5判・定価6600円

新しいパウロ

パウロの何が新しくあったのか？

N・T・ライト著／前川裕訳 パウロは、ユダヤ教の唯一神信仰、選民思想、終末論をどう再定義したのか。パウロの福音理解を新鮮な目で読み直し、ローマ帝国という政治的背景をも視野に入れながら、彼が宣教した壮大なストーリーを蘇らせる。
四六判・定価29700円

ディートリヒ・ボンヘツファー

最新の評伝

抵抗に生きた神学者

クリステイアーネ・テイーツ著／橋本祐樹訳 反ナチ抵抗運動に殉じた生涯と思想を立体的描き出した評伝。
四六判・定価26400円

道を歩む

十字架と復活に向かう 非暴力のイエスに従って

ジョン・ディア著／志村真訳 だがイエスは復活により全てを変えた。レント（受難節）の伴侶の書。四六判・定価22000円



大反響

宗教活動におけるマイクロアグレッション

キリスト教会の日常に潜む暴力と向き合う 四六判・定価29700円

サンダース&ヤーバー著／真下弥生訳 人種や性差などへの偏見の無反省な再演から意識的な嫌がらせまで、親密圏で生じる他者の属性への攻撃は教会も決して無縁でない。その構造を探り、対策を考える。



本のひろば.com



一九五七年七月一七日 第三種郵便物認可
二〇一六年三月一日発行（毎月一回）発行
本のひろば 第八一九号 二〇一六年三月号

発行所 〒112-0014 東京都文京区関口1-44-4 一般財団法人キリスト教文書センター
電話03-3260-6148 振替00170-511679
発行人 金子和人 編集人 村上信児 印刷所 モリモト印刷
発売所 日本キリスト教書販株式会社 電話03-3260-6148

定価七八円（税抜七一円）（63円）
一年分二〇〇円（送料共）